

20101129

2010年11月29日　日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

＜発表＞

細川知正社長：日本テレビでは新たな「出前授業」となる「テレ小屋」を始めます。「出前授業」とは、日本テレビの制作のプロたちが小学校や中学校、高校等に直接出向いてテレビについて授業するものです。日本テレビではこれまでに、技術スタッフを中心とした「日テレ体験教室」や、「ズームイン!!SUPER」が中心となり環境問題を分かりやすく教える「出張エコ教室」等を行ってきましたが、「テレ小屋」はテレビの「魅力」「楽しさ」、時には「裏側」などを織り交ぜながら講義を行い、テレビを理解し読み解く力、「メディアリテラシー」を紹介すると共に、制作者と生徒たちがテレビと一緒に考えていく場にしていきたいと考えています。またその模様は「あなたと日テレ」で放送します。初回の「テレ小屋」は11月30日に行います。

次に、12月1日にオンデマンドの有料動画配信サービス「日テレオンデマンド」を立ち上げます。有料配信する番組は、ドラマ「ハケンの品格」やアニメ「君に届け」など計26本でスタートし、1本当たり315円(7日間／税込)で、パソコン、携帯電話、テレビ向けの外部配信事業者を通じて配信します。日本テレビではこれまでにもドラマ「ホタルノヒカリ」などの番組を、配信事業者を通じて視聴者の皆様にお届けしてきました。今後は「日テレオンデマンド」という統一ブランドのもと、ドラマ作品だけではなく、アニメ、バラエティ、スポーツ等、コンテンツの充実を図り、インターネット有料動画配信を拡大していく予定です。すでに展開中の「第2日本テレビ」はオリジナル動画を配信する無料広告モデル事業で、「日テレオンデマンド」は有料番組配信となります。

また、NTTドコモと共同で「テレビ番組のメタデータを活用した情報提供システム」の市場性に関する実証実験を11月29日から2011年1月31日まで、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県において実施します。NTTドコモが新たに開発したシステムを使用し、日本テレビが保有する詳細な番組情報や番組関連情報などのコンテンツと、地上波キー各局が提供する広報情報などをテレビ番組メタデータとして活用します。スマートフォン向けアプリケーションで利用者がキーワード登録すると、関連した番組が放送される

前に「お知らせ」が届くほか、番組出演者や番組で紹介された商品情報などを簡単な操作で取得できるなど、番組視聴と連携したサービスを利用できます。この実証実験を通して、番組内容に関連した情報の提供方法や視聴促進効果、番組視聴と連携したサービスの有効性を検証し、テレビと携帯電話の新たな連携の形、新たなビジネス、新たな視聴者サービスの確立を目指します。

続いて、サッカーの話題です。TOYOTA プレゼンツ FIFA クラブワールドカップが12月に UAE アラブ首長国連邦で開催されますが、その全ての出場クラブチームが先日決定しました。ワールドカップと並び、世界最高峰の試合が観戦できる機会で、日本テレビでは12月8日（水）の開幕戦から18日（土）の決勝戦まで全8試合を独占中継します。ヨーロッパ代表、イタリア・セリエAのインテルや南米代表、ブラジルのインテルナショナルなど注目チームの素晴らしい試合、深夜の放送が多いのですが、ぜひご覧下さい。

最後に、今年最も話題になったアーティストのひとり、ティラー・スウィフトの来日公演についてです。東京公演が2月16日（水）17日（木）に日本武道館で行われます。ティラー・スウィフトは音楽界で最も権威があるグラミー賞で「アルバム・オブ・ザ・イヤー」最年少受賞を含む4部門を受賞し、2009年に全米で最もアルバムが売れたアーティストとして知られています。シングル「マイン」は「ズームイン!!SUPER」「ズームイン!!サタデー」秋のテーマ曲で、先日来日した際には番組に生出演して歌を披露して頂きました。こちらのコンサートもご期待下さい。

1. 視聴率の動向と当面の編成戦略

記者：視聴率動向と当面の編成戦略を聞かせて下さい。

舛方勝宏副社長：プライムタイムでは7月、8月、9月、10月と4ヶ月連続で日本テレビが視聴率トップを獲得してきました。これは2003年以来でしたが、11月はフジテレビがプライムタイム1位で月間4冠王をとり、日本テレビは2位でした。11月はフジテレビのプロ野球日本シリーズ第6戦、第7戦中継が20%前後の高視聴率であった事、あるいはフィギュアスケート、世界バレーがあるなど、他局がやや通常とは異なる編成でした。日本シリーズの盛り上がりや、バレーボールの視聴率は想定より高いものです。その結果、プライムタイムの月間1位が4ヶ月で途切れた形です。

12月の大型番組としては、24日（金）19時から金曜特別ロードショー「THIS IS IT」4時間スペシャルとして、マイケル・ジャクソンさんの魅力を初めて地上波放送でお伝えします。さらに、その前日の23日（木）に渋谷のSHIBUYA-AXで、幻となったロンドン公演を世界で初めて一部再現します。ダンスプロデューサーのトラヴィス・ペインをはじめ、マイケルさんと同じステージに立つはずだったダンサーたちが8曲のパフォーマンスを披露し、ロンドン公演で使用予定だった3D映像の「スリラー」「スムーズ・クリミナル」「アース・ソング」をパフォーマンスと同時に上映します。さらにソニー株式会社とソニーPCL株式会社の技術協力の下、SHIBUYA-AXでのパフォーマンスを汐留日本テレビの日テレホールで3D同時中継します。このイベントは2回行いますが、SHIBUYA-AXに1,000名、日テレホールに500名、2回公演で合わせて3,000名の皆さんを無料ご招待する予定です。応募方法としては12月10日の「金曜ロードショー」で出されるキーワードを使ってホームページからエントリーして頂きます。

年末年始の番組編成は、視聴率が好調なレギュラーパン組を拡大する形が基本となります。年末の最終週まで好調を維持したいと考えています。昨年は初めて、フジテレビを抑えて年の最終週の視聴率4冠王を獲得しました。今年も連続で最終週の4冠王を狙いたいと思っています。大晦日18時30分から年越しで「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!大晦日年越しSP!! 笑ってはいけないスペイ 24時!!（仮）」を編成します。昨年のダウンタウン大晦日特番では第1部が16.4%、第2部が15.4%の視聴率でしたので、今年も同様に15~16%は獲得したいと考えています。また最終週が1月2日まであり、従って「箱根駅伝」の往路は含まれますので、いい勝負ができるのではないかと期待しています。ここからもう一回立て直し、12月から3月の年度末まで良い戦いをしてトップを追いかけていきます。

1月の新ドラマは、水曜22時に「美咲ナンバーワン！」を放送します。六本木のナンバーワンキャラクタ嬢が、その事実を隠したまま高校教師となり、問題児ばかりを集めた特別クラスに持ち前のパワーと根性で体当たりしていく学園ドラマです。主人公を演じるのは、若い女性から絶大な人気を誇る香里奈さんで、「学園ドラマ」でもあり、「女性のお仕事ドラマ」でもあります。

また土曜21時には民放連ドラ初主演となる多部未華子さんによる「デカワンコ」をお送りします。一度嗅いだ臭いは絶対に忘れない鋭い嗅覚を持つ天然ボケ新人女刑事が警察犬にライバル心を燃やしながら、事件を次々に解決していきます。多部さんのゴスロリ（ゴシック&ロリータ）ファッションにも注目です。新ドラマは2本とも10代の若い層が軸になって、さらに20代30代前半の女性

を中心に観て頂けると思っています。

プロ野球中継につきましては、今シーズンの特徴として BS 放送での野球視聴の増加と定着があります。BS 日テレは接触率でこれまでにない高い実績を挙げたほか、売上も上期で初めて 40 億円を達成しました。これはプロ野球が BS においてはキラーコンテンツになった事を証明した形です。BS も 60%近く普及してきましたので、プロ野球は BS という流れがさらに認知されていくと考えています。また、今シーズンの地上波ジャイアンツ戦ナイターの全局平均視聴率は 8.4%でした。日本テレビの地上波放送は 25 試合で、このうちナイターは 9 試合で平均が 8.2%、昨年よりも 1.6 ポイント下がりました。デーゲームは 16 試合と昨年よりも 4 試合増えましたが、平均で 5.1%、昨年より 1.9 ポイント下がっています。放送枠で言いますと、BS 放送は 56 試合を中継し、CS 放送では 72 試合を中継しました。今後も地上波・BS・CS の 3 波で野球中継を続けていきます。

一方、この 4 月からの上期視聴率の際立った特徴は、10 代の若い皆さんにたいへん多く日本テレビを観て頂いているという事です。10 代の皆さんのがよく観られた上位 25 番組には、「24 時間テレビ」やドラマ「Q10」など日本テレビの番組が 12 本入っています。これまで続けてきた若年層視聴者の獲得がさらに進んだと考えています。いわゆる若い世代、これから日本の将来を担っていく世代が日本テレビを観て下さっている事は大変ありがたい、嬉しい数字だと思っています。

2. 営業状況と放送外収入の動向

記者：営業状況と放送外収入についてご説明下さい。

細川社長：上期決算は単体で減収増益、連結では増収増益でした。単体での減収はネガティブではありますが、いわゆる放送収入である広告収入は上期で前年同期をわずかに上回りました。これはタイムセールスが前年同期比マイナスであった一方、スポットセールスがそれを上回る前年同期比プラスであったという事です。単体減収の理由としては、いわゆる放送外収入の軸となる映画事業やイベント事業が昨年度大変好調であったため、今年度は相対比で下回る形になったためです。今年度は映画「借りぐらしのアリエッティ」などがあり興行収入も順調ですが、昨年度と比較するとやや少ない状況です。一方、グループを含めた連結での増収増益要因としては、昨年度に業績の良くなかった一部のグループ会社が、今年度はほぼ正常な形に戻っている事が挙げられます。ま

た持分法適用会社も昨年度に比べると改善し、その結果が上期決算であったと捉えています。単体が増収増益ではないものの、現在の経済環境下、それなりの決算であったと分析しています。

下期については、放送収入の基本的な方向性は上半期と変わりません。タイムセールスがネガティブな基調で、スポットセールスが好調という事です。第3四半期はスポットセールスの増加分がタイムセールスの減収分を上回る見通しです。一方、第4四半期の1月から3月は、スポットセールスが見通せない状況です。またタイムセールスの年内はほぼ完売していますが、1月から3月はまだ空いている部分があり、そこがどのように埋まるかに注目しています。ただし第3四半期だけ見ますと、タイムセールスがやや下げ止まった印象があります。回復はしていないものの、下がる率が減少してきたと感じられます。従つて放送収入については、前年度より良い状況に進んでいると捉えています。

また現在、年末年始の特別番組のセールスをしていますが、数年前までは年始特番のセールスは順調であっても、年末特番セールスはすぐには進まない状況でした。ところが今期は年末特番が大変好調で、需要が供給を上回っています。恐らく年末にかけてスポットセールス枠が売り切れた結果だと見ています。

放送外収入については、映画事業で目立って大きなヒット作品はないものの、現在「君に届け」、「インシテミル 7日間のデス・ゲーム」、「ゴースト もういちど抱きしめたい」が順調に興行収入を上げています。下期の映画事業でスケール感を含めて期待しているのは「GANTZ」と「太平洋の奇跡—フォックスと呼ばれた男—」です。いずれも幹事作品ですので、収益を期待できると考えています。

下期のイベント事業は、ティラー・スウィフトの来日公演などはありますが、大型案件はありません。通販事業も上期は順調に推移しました。

記者：先日の民放連会長会見で廣瀬会長が、スポットセールスが各社大変好調で、営業利益ではリーマンショック以前のレベルにまで回復してきたと話されました。一方、経費の削減効果が非常に大きいとの事でしたが、経費の削減により、番組制作現場が大変になる状況はありますか。

細川社長：以前に比べて制作費が大変だというのは、一部分あると思います。これまでと同様の番組を、コストをより絞って制作する事になればそうでしょう。経費の節減にはもう10年近く前から各企業が取り組んでいますが、民放も筋肉質になった、経費コントロールがより適正にできるようになったという事です。それにより番組が制作できなくなる事はありません。一方で今後の民

放の課題となるのは、異常に高騰している放送権利金です。サッカーのワールドカップやオリンピックなどの権利金がこれまで通り毎回上昇すると対応できなくなります。場合によっては放送できない状況も出てくるかもしれません。海外映画作品の購入では、すでにかなり金額が下がっています。

記者：日本テレビとして対策は考えていますか。

細川社長：大型スポーツ大会は現在ジャパン・コンソーシアム方式で放送している場合が多いので、日本テレビだけで対応できる問題ではありません。民放連として取り組んでいます。

3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの進ちょく状況についてお願いします。

細川社長：先日発表された9月の総務省・浸透度調査では予定の91%をわずかに下回る90.3%で、地デジは基本的には順調に進んでいます。放送事業者でやるべき事は極めて順調に進行しています。アナログ画面での常時スーパー表示などPRを行い、注意喚起に務めています。「ビル陰難視」等いわゆる「南関東問題」の解消等に注力していますが、前回調査に比べると急速に改善しています。今後も普及に向けて最善の努力を続けていきます。

記者：一部にある完全移行延期論について、可能性はありませんか。

細川社長：そうした議論やご意見があるのは承知しています。しかし、デジタル完全移行は法律で定められ、関係する皆様が肅々と進めてきました。放送機器メーカーもすでにアナログ放送機器の生産を停止していますので、現実的には延期は非常に難しいと考えています。延期するべきだとのご意見をお持ちの皆様は何らかの問題があるとの立場ですが、例え2ヶ月延期した場合にもご指摘の問題が解決するとは思われません。

4. その他

記者：「日テレオンデマンド」は、これまでの「第2日本テレビ」とコンテンツをどのように振り分けるのでしょうか。

舛方副社長：「日テレオンデマンド」で有料配信する番組はドラマ「ハケンの品格」やアニメ「君に届け」など26本がスタート時にラインナップされています。これまでにも有料番組配信は行っていましたが、「日テレオンデマンド」のブランドを打ち出していく事になります。これは無料広告モデルである「第2日本テレビ」と区別しながら進めています。「第2日本テレビ」はクロスメディア広告を扱う営業系のサイトで、オリジナル動画を配信していきます。

細川社長：「第2日本テレビ」の中で、当初の有料課金方式は結果としてビジネスが成立しませんでした。試行錯誤の中で「第2日本テレビ」は無料広告モデルを採用し、単月黒字にまでなりました。ただし有料課金という選択肢も当然あって良いはずです。今回の「日テレオンデマンド」では、日本テレビに有料課金システムを内蔵せず、外部配信事業者にお願いする事にしています。

記者：NTTドコモと行う「テレビ番組のメタデータを活用した情報提供システム」の市場性に関する実証実験では、番組ソフトを流す事はありますか。

細川社長：これはデータを活用するもので、番組ソフトを流すわけではありません。

記者：将来的にスマートフォンへの動画配信、番組配信もあるのでしょうか。

舛方副社長：将来的にその可能性はあります。現状では、番組情報を日本テレビが持っていますので、公開して良いものを提供しながら番組を楽しん頂くという事です。一つのトライアルとしてやっていきます。

記者：有料番組配信に本格参入するにあたり、収支が成り立つと判断されたのでしょうか。

細川社長：すぐに大きな利益が出る事は想定していません。一方でコストについては課金システムを日本テレビでは保有しません。従って大きなリスクをとるものではありません。

記者：ビジネストライアル案件で、3件の新規ビジネスの進捗状況はどうですか。

大久保好男取締役：「日テレ ぐるチケ」、「日テレ ソーシャルゲーム」と「日テレ アプリ」はそれぞれ順調に準備作業が進んでいます。「日テレ ぐるチケ」

は 12 月中にスタートできる見通しです。「日テレ ソーシャルゲーム」も年内から年明けにかけて次々に出せるかと思います。

記者：日本テレビの一部アナウンサーが退職するという報道が最近流れていますが、これについてはどうでしょうか。

舛方副社長：現時点では聞いておりません。

記者：給与体系が変わる事が労使間の大きな問題になっているとの報道も一部ありますが、どのようにお考えでしょうか。

細川社長：給与体系が変わる事については、この先日本テレビが企業として存続していくための継続可能な給与体系を作っているという事です。ご存知の通り、2000 年をピークに総売り上げが下がっています。そうした状況の中で、企業として生き残るための形を作る事を目指しています。

記者：8 月に起きた秩父ヘリ墜落取材に関連する遭難事故について、社内調査の状況を教えて下さい。

細川社長：本当に残念な事で、起きてはならない事が起きました。社内での検証を様々なレベルで行い、ほぼ最終段階に来ていると言って良いと思います。その検証結果を最大限に活かし、事故の再発を防ぐために、社内で可能な限りの対策を探りたいと考えています。具体的な内容については社内の問題ですので公表は差し控えますが、最終的に同種の事故を防止できるのであれば公表する事も検討致します。

記者：民放連会長会見で番組のインターネットへの同時再送信について、広瀬会長はサーバーの負担や著作権処理の問題で、民放では難しいと消極論でした。サーバーへの負担はテレビ局としてかなり大きいのでしょうか。

細川社長：実際にインターネットへの再送信をするかどうかの議論を別にして、サーバーはピーク時に集中する一方、その他の時間帯に稼動率が落ちる効率の悪さがあります。技術的にできてもビジネスになるかどうかは確かに疑問です。一方、技術は日々本当に進歩していますので、今後の状況は注視する必要があります。

(了)